

▲ 大河津分水路拡幅に伴う新野積橋(仮称)架替工事(前田・日本ビーエス特定建設工事共同企業体)施工中/2025年11月撮影



▲ 令和6年度能登半島地震地すべり(曾々木・渋田)緊急復旧工事(株)大林組バックホウとキャリアダンプの遠隔施工



▲ 千葉県君津市の操作室

会員各社名

青木あすなる建設(株)	オリエンタル白石(株)	第一建設工業(株)	東洋建設(株)	(株)北都組
あおみ建設(株)	(株)加賀田組	大成建設(株)	戸田建設(株)	(株)本間組
(株)浅沼組	鹿島建設(株)	大成ロテック(株)	飛鳥建設(株)	前田建設工業(株)
(株)安藤・間	(株)熊谷組	大日本土木(株)	(株)NIPPO	(株)丸山工務所
石黒建設(株)	(株)鴻池組	大豊建設(株)	西松建設(株)	三井住友建設(株)
岩田地崎建設(株)	五洋建設(株)	(株)竹中土木	日特建設(株)	みらい建設工業(株)
(株)植木組	佐藤工業(株)	鉄建建設(株)	日本国土開発(株)	名工建設(株)
(株)大林組	清水建設(株)	東亜建設工業(株)	(株)福田組	(株)森本組
(株)大本組	ショーボンド建設(株)	東急建設(株)	(株)フジタ	りんかい日産建設(株)
(株)奥村組	(株)銭高組	東鉄工業(株)	(株)不動テトラ	若築建設(株)

(50社)



発行 一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 広報委員会

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1(興和ビル7F) TEL(025)285-8886

印刷 新潟中央印刷

2026.3.5 発行

CONTENTS

随想 「地域との共生・共創」	1	現場で輝くけんせつ小町 「建設業ってかっこいい」	10
特集① 社会資本整備の 重要性に関するシンポジウム	2	特集② 令和6年能登半島地震 応急復旧工事新技術紹介	11
特集③ 市民現場見学会	4	若手技術者の現場紹介	13
特集④ 親子工事見学会	6	私のプライベートタイム 「ふるさと新潟の魅力」	15
特集⑤ けんせつフェア北陸2025in新潟	8	事務局だより	16
		2025年度の主な支部活動報告	16



「地域との共生・共創」

東日本旅客鉄道株式会社
上信越建設プロジェクトマネジメントオフィス
所長

小澤 成昭

nariaki ozawa



JR東日本グループの事業につきましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。弊社の鉄道を含む日本の鉄道は開業から150有余年、信越線開業140周年、山手線環状運転開始から100周年。嘗ては近代化の象徴として社会の発展に貢献し、JR東日本発足以降は安全を最優先に掲げ、安全投資や技術開発を通じて時代と共に進化し、地域の皆様と地域社会の発展・活性化に寄与してまいりました。

私ども上信越建設プロジェクトマネジメントオフィスは、信濃川水力発電所の建設を目的として1931年(昭和6年)に小千谷の地に発足し、国鉄時代を通じて信濃川水力発電所、上越新幹線等鉄道関連施設の建設を担ってきた組織を母体として、1991年に小千谷市から高崎市に本拠地を構え、現在に至ります。それ以来、上信越・北関東地区を所管し、長野・北陸新幹線建設、ハッ場ダム建設に伴う吾妻線付け替え、本庄早稲田新駅、三条・岡谷・栃木・伊勢崎、新潟などの高架化事業、単独立体交差化、駅改良・駅ビル開発、河川橋りょう改築、震災復興、沿線開

発など、地域のインフラ基盤整備を通じて地域の発展に努めてまいりました。

近年の主たるプロジェクトでは、ターミナル駅としての新潟駅周辺整備事業にて、事業を構成する3事業(連続立体交差事業、幹線道路整備事業、駅前広場整備事業)のうち、新潟駅の連続立体交差事業の鉄道主体工事が完了し、2006年の事業着手から18年の長きに亘るプロジェクトが1つの節目を迎えました。今後も万代口ペデストリアンデッキ・駅前広場整備を含む周辺基盤整備の継続により、鉄道ネットワーク型まちづくりを推進し、地域に根差した「駅とまち」が一体となった都市機能の拡充と、沿線価値の向上に取り組んでまいります。また、2025年3月には、新潟支社管内の在来線では20年ぶりとなる新駅、越後線上所駅(越後線白山・新潟間)を開業しました。地域の皆様に愛される駅づくりを目指し、近隣の高校生や地域の皆様とのデザインコラボなど、「地域住民参加型の駅づくり」に取り組ましました。JR東日本の使用する総電力量の約2割を担う信濃川発電所はCO2が発生し

ないクリーンエネルギー電源として弊社の鉄道輸送を支えています。建設を所管した部門として現在、老朽化した発電施設更新を計画的に進めるなど、再生可能な自然エネルギー施策の柱として、地域の皆様のご理解を賜りながら発電施設の維持更新に努めて参ります。一方、地域交通としての鉄道については、中心市街地の人口減少や利用者減少などの地域特性や課題解決にむけ、観光需要等の流動創出や、他交通機関も含めた公共サービスとしての交通体系の構築など、地元自治体・地元企業等や地域の皆様との更なる連携が求められています。

今後も、コロナ禍後のお客様の行動と価値観の変化や、首都圏への集中から分散に向かう社会・マーケットの変化、新たな働き方や通勤、健康志向、旅・文化志向などのライフスタイルの変化に伴う新たな移動ニーズを的確に捉え、上信越・北関東地区の地域輸送サービス、地域社会基盤整備、観光振興、地域活性化施策の創出など、豊かな地域づくりを通じて、地域の皆様との共生・共創に寄与してまいります。

特集

1

時代
「強へのパラダイムシフト」
関 克己氏

社会資本整備の重要性に関するシンポジウム

開催日

2025年10月21日(火) 13:30~16:15

会場

朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
4階「国際会議室」



気候変動の影響により激甚化、頻発化している気象災害や切迫する巨大地震から国民の生命・財産を守るため、防災・減災、国土強靱化やインフラ老朽化対策が重要であり、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」及び新たに策定された「国土強靱化実施中期計画」に基づく事業の着実な推進が必要となっています。日建連北陸支部では、社会資本整備の果たす役割の重要性とともに、防災・減災、国土強靱化の更なる必要性について、幅広く共通認識の醸成を図ることを目的にシンポジウム形式で講演会を開催しました。

- 主催：(一社)日本建設業連合会 北陸支部
- 後援：国土交通省北陸地方整備局
(公社)土木学会関東支部新潟会
(一社)日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
(一社)北陸地域づくり協会
(一社)日本道路建設業協会北陸支部
(一社)建設コンサルタンツ協会北陸支部
(一社)日本建設機械施工協会北陸支部
(一社)新潟県建設業協会
- 協賛：日刊建設工業新聞社 日刊建設通信新聞社
北陸工業新聞社 新潟建設新聞
建設ジャーナル社 建設速報社



日建連北陸支部池田支部長挨拶

講演Ⅰ 「北陸地方整備局における社会資本整備と能登半島復旧・復興への取組」

国土交通省北陸地方整備局長

高松 諭 氏

講演Ⅱ 「建設業の長期ビジョンについて」

(一社)日本建設業連合会常務執行役

中井 博喜 氏

講演Ⅲ 「能登半島地震による新潟市の液状化被害について」

新潟大学災害・復興科学研究所教授

卜部 厚志 氏

講演Ⅳ 「気候変動に備える新たなダム時代 ～治水強化・水力発電増強へのパラダイムシフト～」

(一社)日本プロジェクト産業協議会 国土・未来プロジェクト研究会豪雨災害WGリーダー
(公財)河川財団 研究参与兼水管理研究所所長

関 克己 氏



高松 諭 氏

北陸地方の社会資本整備の状況、5か年加速化対策による効果、また、日建連会員企業が取り組んでいる新技術の紹介も含め、能登半島の復旧・復興への取組状況についてご講話いただきました。



卜部 厚志 氏

能登半島地震における新潟市の液状化現象について、過去の新潟における大地震による被災状況の比較やそのメカニズムと今後の対応策、そのための公共事業予算の確保の必要性についてご講話いただきました。



関 克己 氏

災害対策におけるリスク管理や社会・経済活動への展開についてご講話いただくとともに安全とエネルギー確保の両立を目指したダムを活用について、ご提言いただきました。



中井 博喜 氏

建設業の中長期的な方向を示す指針として「建設業の長期ビジョン」について、説明いただきました。

当日は、一般の聴講者も含め、各協会・日建連北陸支部会員他260名に参加いただきました。参加者からは、現在復旧・復興を進めている事業だけでなく、大規模災害を教訓として、切迫している南海トラフ地震、首都直下地震などの大規模地震への対策や、インフラの老朽化対策の必要性を改めて認識した、との声が寄せられました。



市民現場見学会

新潟・富山・石川地区の建設系学生に対して、建設業のイメージアップを目的に、やりがい、魅力を発信するとともに、実際に現場を肌で感じていただき理解していただくとともに、発注者、施工者の若手技術者との交流会を通じより深めていただくために富山・石川地区は8月に、新潟地区は9月に土木学会関東支部新潟会と共催で市民現場見学会を開催いたしました。

富山・石川地区

開催日 令和7年8月25日(月)

見学先 利賀ダム本体建設(第1期)工事

- 発注者：国土交通省北陸地方整備局
- 施工者：清水・鴻池特定建設工事共同企業体
- 参加者：金沢大学の学生11名

当日の流れ

- ・国土交通省北陸地方整備局 利賀ダム事務所による利賀ダム事業概要説明
- ・利賀ダム展望台よりダムサイト及び押場地区見学
- ・ダムサイト仮設備ヤード(基礎掘削、仮設備施工箇所)見学
- ・下島地区仮設備ヤード見学
- ・発注者、施工者の若手職員と参加者の懇談会



アンケート回答意見

- ・発注者やゼネコンの方と近い距離で話せたので有意義だった。
- ・業務内容から働き方まで幅広く聞くことができ、学びになった。

来年度以降の企画についての要望は、できる範囲でより現場を近くで見たい。技術的なことをもっと知りたいなどの意見があり、今後も学生の皆様に興味をもって頂けるような市民現場見学会を開催し、担い手確保につなげていきたいと思います。

最後に、市民現場見学会開催にご協力頂きました国土交通省北陸地方整備局利賀ダム工事事務所様、ならびに施工関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

新潟地区

開催日 令和7年9月29日(月)

見学先 大河津分水路新第二床固改築1期その2工事

発注者：国土交通省北陸地方整備局 ■ 施工者：鹿島・五洋・福田特定建設工事共同企業体

見学先 野積橋上部工事

発注者：国土交通省北陸地方整備局 ■ 施工者：前田・日本ピーエス特定建設工事共同企業体

参加者：新潟大学・長岡技術科学大学・長岡工業高等専門学校の学生70名

当日の流れ

- ・大河津分水路工事見学・にとこみえーる館(大河津分水について学べる施設)
- ・野積橋工事概要説明・現場見学
- ・発注者、施工者の若手職員と参加者の懇談会



アンケート回答意見

現場見学の後、昼食をとりながら「若手技術者との交流会」を実施いたしました。各テーブルに、官民の若手技術者を配置し、学生は5~6人のグループに分かれ、コミュニケーションを図りました。学生の皆さんは、日頃の業務内容・社内の雰囲気・給料・休日など…様々な質問を投げかけ、若手技術者の説明を熱心に聞いていました。

見学会後のアンケートでは、若手交流会が実際に働いている人の生の声が聞けたことは有意義だったとの感想を多数いただきました。多くの学生が建設業界への就職に興味を持っているとともに一方では、労働環境や休日・残業等に不安があることがわかりました。この交流会によって建設業をより身近なものに感じてもらえればと思います。私たち業界の今後の働き方改革をはじめ、魅力ある建設業へ向けて、更なる注力が期待されています。

最後に、見学会開催にご協力いただきました北陸地方整備局様ならびに施工関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

親子工事見学会

〈小学校高学年を対象とした「親子工事見学会」を開催〉

令和7年7月に(公社)土木学会関東支部新潟会、(一社)日本建設業連合会北陸支部の共催による「親子工事見学会」を行いました。

トンネル現場見学

今年は、磐越自動車道 宝珠山トンネルを見学し、磐越自動車道4車線化事業情報館ではVR体験、午後からは北陸地方整備局「見学デー」と連携し、橋梁点検車試乗、豪雨・地震体験など、多くの小学校高学年の児童と保護者の方々に(計35名)参加いただき学んでいただきました。

子供達は初めて見る工事中のトンネル坑内の様子に感嘆の声を上げていました。また、VR体験や重機の遠隔操作に興味を持っていました。



見学場所



工事名 磐越自動車道宝珠山トンネル工事
発注者 東日本高速道路(株)新潟支社
施工者 (株)大林組

磐越自動車道三川IC～安田IC間における
 4車線化事業の内、トンネル工事、土工事、
 橋梁下部工工事を担当



見学会後のアンケートでは、高い評価をいただきました。「工事現場は重労働で男の仕事という時代ではなくなっていくのでしょうか。」「子供が遠隔操作ができる重機の説明を見て興味を持っていました。」子供たちは最新の技術に興味をもち、保護者の方には、社会資本整備をささえる建設業を理解していただく意義のある見学会になったのではないのでしょうか。最後にご多忙の中、当見学会にご協力いただきました東日本高速道路(株)新潟支社様ならびに、施工関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

特集
4

みて、ふれて、知る 新技術・新工法
けんせつフェア北陸2025 in 新潟
 ～ミライへ加速!インフラDX～

開催日/令和7年10月1日(水)～2日(木) ■会場/新潟市産業振興センター



産・学・官の優れた新技術・新工法を一堂に集め、建設技術者の技術の研鑽・高揚並びに技術情報の交流の場として、建設技術の一層の高度化やより広範囲な技術開発へつなげ、積極的な活用促進を通じての地域づくり、建設業における担い手確保の広報を目的に「けんせつフェア北陸2025in新潟」が10月1日(水)、2日(木)の2日間にわたり、新潟市産業振興センターで開催されました。

本フェアは、国土交通省北陸地方整備局をはじめ新潟県、富山県、石川県、新潟市、東日本高速道路(株)新潟支社、中日本高速道路(株)金沢支社、日建連北陸支部他の建設業団体で構成する実行委員会が主催し、17回目となる今回は「国土強靱化」、「GX」、「連携・活力・新技術」をテーマに176の出展者から、528技術、過去最高の出展(技術)数となりました。

また、担い手確保・育成の取り組みとして新潟県内の大学、高専、高校の学生が来場し熱心に各展示ブースを見学。

日建連北陸支部からは、32社119技術について展示があり、入場者2日間で過去最高の5,896人の方に、各社保有の建設技術をみて頂くことができました。



■ 日建連北陸支部会員会社からの出展状況

会社名	出展技術名	会社名	出展技術名
あのみ建設株式会社	● ICT 地盤改良工法 ● 水底土砂ポンプ浚渫工法 ● 水中バックホウ・水陸バックホウ	榊竹中土木	● スマートコラム工法 ● CDM-EXCEED工法 ● 液状化現象再現装置
株安藤・間	● 提体盛土の安定化技術 ● 多方向スラリー・揺動攪拌工法「WILL-m工法」	鉄建建設株式会社	● HEP&JES工法 ● COMPASS工法 ● 超低空頭場所打ち杭工法 ● コンクリート打設管理システム ● 点群データを活用した配筋検査システム ● 機械式深礎工法(Shinso-MaN工法)
株植木組 / 株ユニテック	● 建築BIMとその連携技術 ● 熱回収装置 ReCalo+ ● 施工管理技術のAR体験 ● iPhone・iPad測量による効率化 ● コンクリート品質管理システム「Poc-Tech」 ● モバイル式歩行者板 ● 次世代スマート舗装品質管理システム「Pave Scan」 ～非破壊・リアルタイム計測で実現するインフラ長寿命化～	東亜建設工業株式会社	● 船舶航行監視システム「COS-NAVI」 ● ICT対応型水中バックホウによるリモートオペレーション
株大林組 能登半島災害復旧工事事務所	● 汎用遠隔縦横装置「サロゲート」	東洋建設株式会社	● 海底ケーブル埋設技術開発 ● グラブ浚渫トータル施工システム
株大林組	● 盛土工事の「統合施工管理システム」 ● 中空床版架替工法「HOLLOWAL®」 ● トンネル更新の急速化施工技術「ワンバインドクロス®」 「フラップリフト®」 「ワンバインドスプレー®」	西松建設株式会社 日特建設株式会社	● 山岳トンネル無人化施工システム「Tunnel RemOS」 ● スローペースイパー ● ワクラクショット ● N-Jet工法
株大本組	● ニューマチックケーソン工法(ROVOケーソン工法) ● 山岳トンネル工事へのプロジェクトマッピング活用 ● 貝殻利用技術「JFシェルナース」	株福田組	● 動画とAIを活用したトンネル掘削時の地山評価システム ● シールド工法用自動測量システム ● 交換可能な塩分吸着パネルによる持続的塩害抑制工法 ● パネル式システム吊足場「フライングステージ」
株奥村組	● 下水道保全包括民間委託と技術 ● 木造ハイブリッド建築	株フジタ	● SAR衛星による広域豪雨被害把握技術 ● 土質改良材「FTマッドキラー」 ● 気象データを活用した水害ソフト対策 ● 遠隔縦横用建設ロボット「ロボQS」 ● ハイリフト無濁浚渫工法 ● 高耐久マイクロパイル ● 全自動ドローンシステム
株加賀田組	● MMSを活用した高精度3D測量技術		● 充填ウォッチャー ● 重機レーザー ● 遠隔臨場快適マップ ● 坑内巡視ドローン ● 吹付コンクリートのリバウンド低減技術 ● 炭素固定型インターロッキングブロック
鹿島建設株式会社	● 次世代の建設生産システム「A4CSEL®」 ● スマート床版更新(SDR)システム® ● 超高強度繊維補強コンクリート(UFC)	株不動テトラ	● リソソールPro工法 ● 液状化対策技術とその効果 ● 震災復旧における地盤改良技術 ● 消波工におけるICT技術の活用例 ● 港湾構造物の生物共生効果の向上技術 ● ヘルメックス ● テトラネオ
株熊谷組	● 無人化施工VR技術～シミュレータ～ ● 橋梁用「コッター床板工法」 ● MRコンクリート締固め管理システム・北陸新幹線における生産性向上技術	株本間組	● 中継ポンプ船「越後9000」 ● クレーン作業ナビシステム ● 港湾工事運航管理システム ● 音響カメラ搭載型ROV ● ブロック据付シミュレーター「3D-BW」
株鴻池組	● Reライニング工法 ● Kcal®(ケイカル) ● バキュームプラス自動化ロボット	前田建設工業株式会社 (インフロンティア・ホールディングス株式会社)	● PCM吹付左官自動施工技術 ● 導水路内自動搬送技術 ● 改良型ジオブリッジ工法 ● 低炭素素材(ecole(エコール)) ● フリーズオフコート ● マイルドパッチ
五洋建設株式会社	● 海洋観測ドローンPOV-DA ● 海上工事のクレーンオペ体験	三井住友建設株式会社	● AI搭載ラックカメラ ● SMilet(スマイレット) ● 能登復興関連技術
佐藤工業株式会社	● HMDドリルジャンボ無線遠隔操作システム ● 発破パターンの自動適正化システム ● 佐藤工業のトンネル施工	りんかい日産建設株式会社 若築建設株式会社	● 建設の新時代:3DモデルとAR/MRの融合 ● コンクリートAI締固め管理システム ● 試薬噴霧機構付きCPTビデオコーン貫入試験器「WIT-video-CPT」
清水建設株式会社	● シミズ・スマートトンネル ● S-Movable Towercrane ● DACコート ● SCプレミアムベルコン ● 3Dプリンティング技術 ● Hydro Q-Bic		
ショーボンド建設株式会社	● AIジョイント ● せん断ストッパー ● 緩衝チェーン ● ニュースパンガード ● 騒音対策スパーサー		
第一建設工業株式会社	● 任意深度定着型仮締切り工法(D-flip工法) ● Sto乾式吹付工法		
大成建設株式会社	● 重機無人化・自動化技術 ● トンネル施工技術TRミックスアーク		
大成ロテック株式会社	● ワンダーコーティングシステム ● モッコート ● TRミックスアーク		
大日本土木株式会社	● 塩害対策型ハイビウォール ● 遮音材「RSSシート」 ● DNSSによる杭打施工管理システム「G-PARS」 ● コンクリート打設天端仕上り高さ管理システム「コテプリ」 ● ドクターバイオ ● ミニアンカー工法 ● AIキャラクター「ミラノア」によるチャットボットシステム		

出店テーマ分類

- 国土強靱化
- GX
- 連携活力・新技術活用

現場で輝くけんせつ小町



「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。

「建設業ってかっこいい」



若築建設(株) 北陸支店
石田・若築能登地域復旧・復興JV
R6能越道横田徳田大津道路復旧その4工事
水村 彩莉
Ayari Mizumura

建設技術者になろうとしたきっかけは？

学生時代に熊本地震を経験したことが建設技術者を目指すきっかけとなりました。震災当時、水も電気も止まり、この先どうなるのかわからず不安な日々を過ごしていました。そんな中、復旧工事が行われ、徐々に元の生活に戻りつつある姿を見て、これまでの当たり前は建設業界の人々に支えられていたのだと気づくと同時に、自分も人々の当たり前を支える仕事をしたいと思いました。建設業に関わればと漠然とした将来像を考えていましたが、大学で建設関係を学んでいく中で、道路や上下水道などの人々の生活を支えるインフラが非常に重要な役割だと感じ、それらを実際に施工することに一番深

くかかわることができる現場土木技術者を目指しました。

現在の業務のやりがいについて

現在、震災復旧現場に従事し、安全管理、測量作業を含む施工管理を主に担当しています。震災復旧工事のため、様々な場所で多くの工事が行われており、人手不足、資材等の入手困難な状況下での工事です。特殊な現場であるため、設計と現地での相違点も多々あり、現地調査・巡回、測量を常々行い、探りながら現場を進めていかなければなりません。入社一年目からこの現場に従事していますが、工事範囲が広く、工種も多いため、毎日の進捗状況の把握、各現場の設計の把握が重要であり、毎日があたたく過ぎていきます。覚えることが多い反面、その分やりがいを感じますが、学生時代に震災を経験し、支えられていた側だった自分が、支える側として復旧に一翼担う存在になれていることが一番のやりがいだと思います。実際に、道路が一部完成し、車両がその道路を通る姿を見ると感動はもちろん、復旧が徐々に進む姿から人々の生活を支えるという建設業の使命を感じ、日々やりがいを感じています。

女性に建設業を選んでもらうには

最近では女性技術者も増えてきましたが、建設業の3Kのイメージはまだ強く残っていると思います。実際、普通の会社員、室内での事務作業に比べれば、建設現場は危険なところなのは事実です。正直、両親も私がこの仕事をするに

対して心配していると思います。私も就職活動中、技術者になることに対する不安はもちろんあったので、いろんな建設業の情報を調べたり、実際に現場で活躍している女性技術者とコンタクトをとったりと自ら進んで行動していました。その中でも、女性技術者の声は覚悟を決める後押しとなったため、女性技術者の声を実際に聞けるような活動や、女性技術者の活躍の発信をもっと積極的に行い、身近に感じてもらえることが大事だと思います。

未来の女性技術者へのメッセージやアドバイス

建物などを作るうえで、コンサルタントから職人まで様々な人が関わり、同じものを作っていきます。同じものを作る仲間として、しっかりとコミュニケーションを築いていくこと、技術者を目指すうえで非常に重要です。現場には見た目が怖い職人もいますが、話してみると気さくな方が多いです。見た目にとらわれず、積極的にコミュニケーションをとることができれば協調性が生まれ、施工がスムーズに進み、よりよいものを作ることができると私は思います。

現場に従事すれば、時には力仕事や、重機が稼働し危険な中仕事をするところもあるため、生半可な気持ちでは技術者にはできません。女性技術者が増えてきたとはいえ、まだまだ男性の方が多く、不安な気持ちを抱くのはわかります。しかし、「地図に残る仕事なんてやりがいしかないじゃん、かっこいいじゃん!」と私は思います。人々の生活を支える緑の下の力持ちとして一緒に働きますか?建設業に興味がある方、ぜひ一緒に建設業を盛り上げていきましょう!



令和6年能登半島地震 応急復旧工事新技術紹介

能登半島地震復旧・復興工事で活用されている日建連北陸支部会員企業の最新技術を紹介します。

2024年 1月



土砂ダム

2025年 12月



土砂ダム埋戻し

仮排水路

無人化用走路

基幹堰堤 (無人化施工適用箇所)

無人化機械 操作室から操作

- ・ 1.4mバックホウ×1台
- ・ 10tクローラーダンプ×5台

無人化機械 大阪から操作

- ・ 0.8mバックホウ(MG)×1台

施工現場

令和6年能登半島地震河原田川緊急復旧工事

施工会社

鹿島建設株式会社

■ 現場代理人：安齋 勝 氏の感想

石川県輪島市市ノ瀬地区は、能登半島地震による大規模な斜面崩壊で上流側に土砂ダムが発生し、これまで緊急復旧工事として仮設防護堤および仮排水路を整備してきました。現在は基幹堰堤の構築のための床掘削を実施しています。

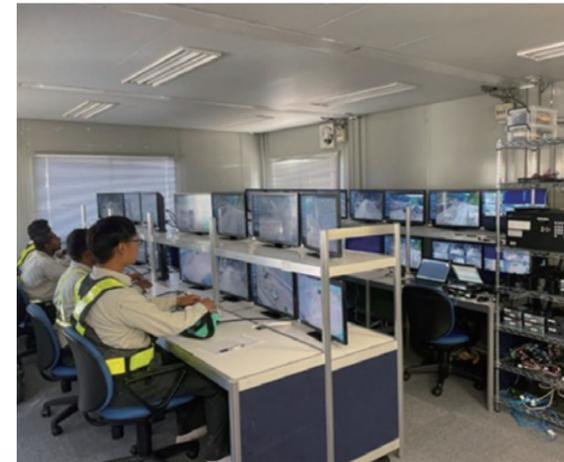
掘削箇所は、斜面崩落箇所の末端部に位置しており、崩落土砂が厚く堆積していることに加え、地下水位も高い不安定な箇所をすり鉢状に掘削する必要があります。

掘削時の法面崩壊等の二次災害のおそれがある環境下において施工時の安全を確保するため、以下の技術を導入しています。

- ・ 遠隔操縦可能な無人のバックホウとクローラーダンプの導入：現場内の操作室から操作
- ・ 床掘の仕上げ掘削作業に、遠隔操縦の無人ICTバックホウ(MG)による法面整形：大阪から操作

これらの技術の導入は、危険な箇所からオペレーターを離すことで安全性の向上に多く寄与するだけでなく、災害発生時など危険区域への立ち入りが制限される中でも、遠隔操作であれば比較的早期に復旧作業に着手できます。これにより、迅速な初期対応も可能になります。

また、災害復旧現場ならではの長距離移動や宿泊施設不足、現地での技能員の確保の問題を緩和でき、さらには場所や時間の制約をなくすことで、これまで建設現場での就労が難しかった人材の活躍を可能とする技能者確保に役立つと思われま。



操作室(現場内)



操作室からの遠隔施工



操作室(県外：大阪)



県外(大阪)からの遠隔施工



国道17号
新浦佐大橋(渡河部)下部その2工事

株植木組 星野 真徳 | Masanori Hoshino

若手技術者の現場紹介

令和6年
能登半島地震河原田川緊急復旧工事

鹿島建設株式会社 北川 遥喬 | Haruki Kitagawa



国道17号新浦佐大橋(渡河部)下部その2工事



国道17号浦佐バイパス事業概要

新潟県南魚沼市浦佐地内の上越新幹線に並行する現道区間では、冬期除雪障害が問題となっています。浦佐バイパスは、除雪障害の解消、魚野川の洪水時の路面冠水及び春先に発生する濃霧区間を回避するとともに、魚沼地域における医療高度化に向け平成27年6月に開院した第三次救急医療機関である「魚沼基幹病院」へのアクセス向上を目的とした、南魚沼市市野江甲～魚沼市虫野間の延長6.6kmのバイパス事業です。

工事目的・特性

本工事は、国道17号浦佐バイパス事業の一環として、一級河川魚野川を渡河する橋梁のうち、非出水期間において河川敷内でニューマチックケーソン基礎にて橋脚1基を施工するものでした。

現場は、河川敷で周辺には遮蔽するような建物もないため、風が吹き抜ける現場であること、豪雪地帯でさらに非出水期の施工という河川条件も付されており、降雪期中も施工しなければならない状況でした。

現場の中での自分の役割・現場を経験して・学生へのメッセージ

施工管理して満10年目でした。現場では現場代理人として、協力業者や発注者・地元住民及び関係機関と打合せ等を行い工事の完成に向けての舵取りを行ってきました。工事は5月末までに河川内作業を完了しなければならないこと、さらに豪雪地帯であるため非常に厳しい工程でした。本施工前までの段取りが全て関係してくるので、入念な調整と工程管理を行った結果、無事に5月末までに河川内作業を完了することができ、発注者からも高い評価を頂くことができました。関係した方々に心より感謝しています。

今の時代色々なものが進化しコンビニもセルフレジになったり、小学校ではタブレットが配布されたり等人手がいらぬ時代へと進んでいます。建設業も生産性向上への取組み等で無人ダンプ・重機が稼働して現場を行ったりしていますが、施工管理職はなくなりません。つまり、時代が進化しても「手に職」があるということの意味です。昔とは違い、ユニフォームがかっこいい・給料が高い・休日を確保できる(3K)という時代になりましたので、是非就職する際の選択肢に加えて頂ければ幸いです。一緒に仕事できる日を楽しみにしております。

工事概要

本工事は、令和6年1月1日の能登半島地震で被災した河原田川流域の緊急復旧工事です。市ノ瀬地区・熊野地区の2工区に分かれており、市ノ瀬地区は約160万㎡の土砂崩落により、河原田川支流である「もみじ川」の河道閉塞および土石流が発生し、熊野地区は土砂崩落による河原田川本川の河道埋塞が発生しました。

現在、市ノ瀬地区は基幹堰堤の施工に向けて崩落土砂の掘削を、熊野地区は護岸ブロック積、崩落斜面の保護を行い、元の河道確保に向けた施工を行っています。



市ノ瀬地区：(左)発災直後 (右)令和7年12月撮影



熊野地区：(左)発災直後 (右)令和7年12月撮影

現場特性

現場の特性として、かつて民家が合った場所での作業であることが挙げられます。市ノ瀬地区の施工全般では、土砂に埋もれた民家や生活道路が出てくる場合があります。地域の方の思い出の品やガスボンベなどの危険物がどこにあるか分からないため、重機での掘削は慎重に行う必要があります。また、崩落土上や崩落法面下など危険な作業環境下で迅速な復旧が求められます。そこで安全性・施工性を考慮し重機の無人化施工、RCM(ロッククライミングマシン)、クローラー式生コン車、自動生コンバケットなど様々な技術・手法を導入して施工を行っています。

現場を経験して・学生へのメッセージ

私は令和6年9月17日に初めての現場として配属され、4日後の9月21日に豪雨災害に見舞われました。大きく被害を受けた現場と、日に日に復旧する現場を目の当たりにし、自然の強大さと人の力の強かさを実感しました。また、地元の方から「ありがとう」と声をかけていただくのも、復興に貢献していることを感じる事ができ、非常に大きなやりがいです。

ぜひ私たちと一緒に建設業界で働いてみませんか?

事務局だより

MY 私の PRIVATE TIME



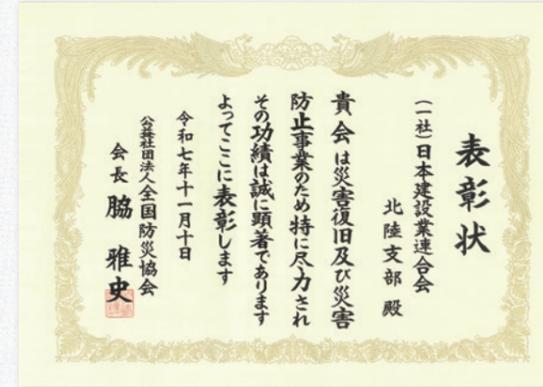
(株)加賀田組
執行役員営業本部長
金子 文信
Fuminobu Kaneko

「ふるさと新潟の魅力」

<p>令和6年12月より、弊社営業本部長に就任しました。弊社は明治28年創業で本年130周年を迎えます。これもひとえに時代ごとに多くの方々に支えられてきた結果だと感じております。現在の社屋は平成24年に完成し今年で13年目になります。13年前は、リーマンショック後の厳しい時代でしたが、自民党が政府与党に返り咲き景気も上向いていった時期と記憶しております。</p> <p>さて、私は新潟県五泉市で生まれました。五泉市は名前の通り、かつて五つの泉があったことに由来して名付けられたと記憶しております。昭和29年に旧中蒲原郡五泉町と川東村、巢本村、橋田村が合併して誕生し、その後平成18年に旧村松町を合わせ、現在の五泉市になりました。以前は旧五泉市、旧村松町合わせて6万人弱ほどだったと記憶しておりますが、現在は約4万人台に減少しており過疎化が進行しています。</p> <p>しかし、このような状況下でも、私の故郷は、蒲原平野の中で市内には早出川、能代川の一級河川が流れ、米</p>	<p>どころとして豊かに暮らしていける地域です。過去には織物やニットなどの工場が集積し、一大産地として名が知れ渡った時代もありました。市内は料亭など多くあり活気に満ち溢れ、東京の商社が買い付けに来た際には、村松地域の鯉料理でもてなしたと聞いています。</p> <p>現在、特に有名なのは里芋の「帛乙女(きぬおとめ)」です。平成2年に大掌祭で皇室献上品として選ばれております。他県には無い独特の食感、里芋の既成概念を変える品物だと確信しています。ぜひ、里芋の「から揚げ」や、片栗と味噌で和えた「芋みそ」を召し上がっていただきたいと思えます。これらは里芋の粘りと柔らかさがはっきりわかる調理法です。</p> <p>新潟県は、全国で5番目の面積を誇り、人口も200万人と日本海側最大の県です。以前から対岸にはロシア、中国、韓国などがあり将来に向けてポテンシャルの高い地域と考えられています。しかし実情は変わってきており、多くの課題を抱えています。</p>	<p>■ 交通の不便さ</p> <p>上越新幹線は新潟が終点で先がなく、新潟空港は滑走路が短く大型機が発着できません。さらに新幹線の空港乗り入れも進んでおらず、利便性については課題が多い状況です。</p> <p>■ 物流の非効率さ</p> <p>新潟東港は水深が浅く、大型貨物船や大型客船が入港できないため、品物を新潟から横浜へ陸送しそこから海外へ輸出しているのが実情です。</p> <p>これらの課題を早急に解決し、新潟県を観光立県として世界中から観光客に来ていただける地域にしたいと願っています。北陸では石川県、さらに最近では富山県が注目されていますが、新潟も決して引けを取らない魅力を持っています。多くの人に訪れてもらうことでその良さをさらに知っていただきこれからの世代も誇りに思える故郷でありたいと願っています。</p>
---	--	--

令和7年11月10日(月) 砂防会館

全国防災協会



令和6年9月奥能登地域を中心とした豪雨対応にあたり、被災地の災害復旧に寄与した功績に対し公益社団法人全国防災協会より「令和7年度災害復旧及び災害防止事業功労者表彰」を受賞しました。表彰式には池田支部長が出席しました。



令和7年12月10日(水) 石川県

石川県



石川県より令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨復旧・復興における災害対応に対する感謝状が贈呈されました。表彰式には角野副支部長が出席しました。

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨 知事感謝状贈呈式



2025年度の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき、以下の活動を展開してきました。

■ 公共工事の諸課題に関する意見交換会

開催日/2025年6月5日(木)
会場/朱鷺メッセ
内容/ゆう78号2025年9月発行に内容を掲載

■ 北陸支部定時総会

開催日/2025年6月5日(木)
会場/ANAクラウンプラザホテル
内容/ゆう78号2025年9月発行に内容を掲載

■ 北陸電力への本部役員挨拶

開催日/2025年7月29日(火)
押味土木本部長をはじめ本部役員と池田支部長により、北陸電力への挨拶を行い、情報交換を行いました。

■ 親子工事見学会

実施日/2025年7月31日(木) 見学場所/磐越自動車道宝珠山トンネル工事 内容/本誌に掲載

■市民現場見学会

(富山・石川)
実施日/2025年8月25日(月)
見学場所/利賀ダム本体建設(第1期)工事
金沢大学学生対象



富山・石川地区

新潟地区

(新潟)
実施日/2025年9月29日(月)
見学場所/大河津分水路新第二床固改築1期その2工事
新潟大学・長岡技科大・長岡高専の学生対象
土木学会関東支部新潟会との共催
内 容/本誌に掲載

■東日本高速道路(株)新潟支社との意見交換会

開催日/2025年10月7日(火)
会 場/ハミングプラザ VIP新潟
内 容/ホームページに掲載

■中日本高速道路(株)金沢支社との意見交換会

開催日/2025年10月30日(木)
会 場/アドリビタム デュオ
内 容/ホームページに掲載

■安全パトロール・現場点検(9月~11月)

内 容/安全環境対策委員会(安全分科会)で新潟・石川の現場パトロール。
事故防止対策委員会が本・支部合同で火薬現場点検、交通安全・公害防止支部点検を行いました。

■けんせつフェア北陸2025in新潟に参加

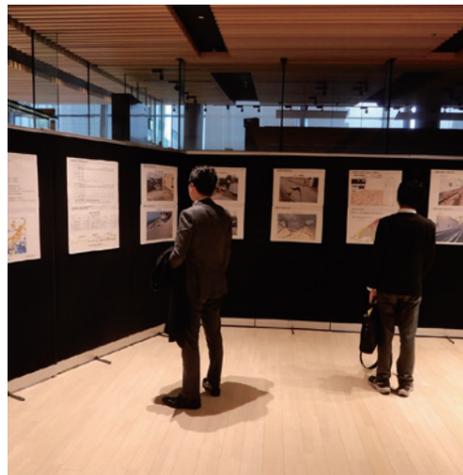
開催日/2025年10月1日(水)2日(木)
会 場/新潟市産業振興センター
内 容/本誌に掲載

■工事視察研修会

開催日/2025年10月8日(水)~9日(木)
視察場所/令和6年能登半島地震復興状況
(河原田川緊急復旧工事・中屋トンネル)

■「土木の日」記念講演会

開催日/2025年11月19日(水)
会 場/日報メディアシップ
内 容/新潟市都市政策部都市計画課長佐藤浩一氏から「令和6年能登半島地震における新潟市の液状化現象と対応について」と題して、和倉温泉多田屋若女将多田弥生氏から「令和6年能登半島地震における旅館・和倉温泉の取組」と題して土木学会新潟会と共催で講演会を開催しました。



■新潟市議会政策研究会との情報交換会

開催日/2025年11月25日(火)
会 場/新潟市役所
内 容/公共工事の予算確保・受注機会の確保と入札制度の検討・工事施工円滑化・働き方改革と建設技能者の処遇改善について情報交換を行いました。

■労働災害防止安全推進大会

開催日/2025年11月28日(金) 会場/新潟グランドホテル
内 容/会員会社の建設現場における更なる安全意識の高揚と労働災害撲滅に向け決意を新たにしました。
優良工事施工者表彰を行い「米百俵プレイス東館建築工事」の清水・加賀田組・大石米百俵プレイス東館建築特定共同企業体と、「手取川熊田川樋門新築工事」の青木あすなる建設(株)手取川樋門作業所が表彰されました。



■新潟労働局と安全環境対策委員会との意見交換会

開催日/2025年12月3日(水) 会場/興和ビル 内容/ホームページに掲載

■現場代理人等との意見交換会

開催日/2025年12月11日(木)
会 場/アドリビタム デュオ
内 容/ホームページに掲載

■建設技術報告会に参加

開催日/2026年1月9日(金)~1月30日(金)
オンデマンド配信
会員会社12社14課題発表

■事故防止に関する講習会

開催日/2025年12月5日(金) 内容/建設工事の交通事故防止についての講習会を開催しました。
開催日/2026年1月27日(火) 内容/建設工事に伴う環境公害対策講習会を開催しました。
開催日/2026年2月10日(火) 内容/地下埋設物事故防止についての講習会を開催しました。
会 場/新潟県建設会館

■新潟県との意見交換会

開催日/2026年2月4日(水)
会 場/ハミングプラザVIP新潟
内 容/ホームページに掲載予定

■JR東日本上信越建設PMOとの意見交換会

開催日/2026年2月18日(水)
会 場/アドリビタム デュオ

■運営会議開催

開催日/2026年3月4日(水)
会 場/アドリビタム デュオ

■北陸地方整備局との意見交換会開催

開催日/2026年3月4日(水)
会 場/アドリビタム デュオ
内 容/ホームページに掲載予定

■北陸地方整備局企画部と安全環境対策委員会との情報交換会開催予定

開催日/2026年3月12日(木) 会場/アドリビタム デュオ 内容/ホームページに掲載予定

BACK STAGE 編集後記

今号の表紙は、能登の復旧工事です。特集記事でご紹介した遠隔施工や無人化施工と言った技術の活用が進み、能登半島各地で、港湾の復旧や道路啓開が、現在、着実に進んでいます。また、地震で隆起した海岸や災害遺構は「能登絶景海道」として観光資源としての活用が検討されています。災害の記憶を未来へつなぐ意味でも、意義深い取り組みと感じ入ります。今、この地域には、困難

な状況を逆手に取って新しい価値を生み出す知恵や、新技術の積極的な活用と言った逞しさが、芽吹いています。災害は決して望むものではありませんが、ここで生み出された知恵、そして実践で活用されたDX技術やノウハウは、この国をより強く、しなやかにしていく力となることでしょう。

(笠原 浩平 記)

広報委員会スタッフ
委員長 東峰 裕之(五洋建設)
副委員長 岡崎 豊彦(熊谷組)
委員
伊藤 恒治(安藤ハザマ) 阿部 伸昭(植木組)
大川 祥功(大林組) 中本 陽(大本組)
吉村 輝樹(鹿島建設) 信清 孝樹(五洋建設)
久保田雄彦(清水建設) 小林 恵一(銭高組)
柳山 一樹(第一建設工業) 長谷川正人(大成建設)
笠原 浩平(東亜建設工業) 津川 圭一(フジタ)
涌井 卓(前田建設工業) 工藤 悟(若築建設)
事務局長 三澤 正人(日本建設業連合会北陸支部)